令和元年度　第１回広陵町子ども・子育て会議　議事要旨

日時：令和元年５月 28 日（火）午前 10 時～
場所：広陵町総合保健福祉会館４階　中会議室

１．会議次第

１．開会
２．会長あいさつ
３．議題
　（１）第１期子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について
　（２）第２期子ども・子育て支援事業計画に係る事業量の見込みについて
　（３）その他
４．閉会

２．配布資料

会議次第、広陵町第１期子ども・子育て支援事業計画事業実施状況調査結果報告書、推計結果まとめ（2019 年４月基準人口推計結果に基づく量の見込み）

３．会議出席者

委員：15 名のうち 13 名出席

４．議事概要

１．開会
　事務局の進行により開会
２．会長あいさつ
　会長よりあいさつ
３．議題
　会長の進行により、（１）～（２）については事務局から資料の説明の後、委員からの質疑応答（発言内容については「５．議事要旨」参照)。（３）その他に関して次回の会議予定（９月下旬）を報告
４．閉会
　事務局の進行により閉会

５．議事要旨

会長

第１期子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について、事務局から資料の説明をお願いします。

事務局

第１期子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について説明。

大城会長

事務局の説明について、ご質問・ご意見をお願いします。

委員Ａ

地域子育て支援拠点事業について、開所日数を増やして、2017 年から 2018 年にかけて増加していますが、なかよし広場からずっとみていましたが、それぞれの広場で特徴があり、それぞれの支援員が丁寧に対応してくれています。民生委員やこども園では地域の方が一緒に見守りもしてくれています。

私はＮＰＯ家族を応援する会で０歳児を対象に子育ての入り口にいる方を応援していますが、乳児を育てているお母さんから、広場がもう少し広ければよいというご意見や乳児と幼児が一緒では危険ではといったご意見をいただいた。また、広陵町元気号でなかよし広場に直接行くことができないかといったご意見をいただきましたのでこうした機会に報告させていただきます。

日曜日に子育てフォーラムを開催させていただいたが、準備段階から多くの方が協力してくれました。地域の中で子どもを育てることに関してもっと何かできないかといってくれた方いました。

地域子育て支援拠点事業は、特に未就園児の親を対象にしていますが、保育園に通っていれば担任の先生に相談することができますが、未就園児の親は子育ての相談をどこでしてよいかわからない方が多い。そうした不安や相談も何回か広場に来て、人間関係ができてからはじめて話します。こうした相談に対応するため日数を増やすことも１つの案だが、ニーズを把握するためのアンケートをするなど、利用者にとって必要なことを把握することが大切ではないでしょうか。

今回、実施したアンケートの自由意見を読むと、父親の役割も含め、切実な悩みがあるように思えます。利用者を増やすためには日数を増やすだけではなく、ニーズの把握が必要だと思います。なかよし広場だけでなく、地域で相談できるようにするとか、母親がほっとできる場づくりなど、未就園児の母親をどう支援していくか、様々な対策を考えていく必要があると思います。広陵町がより子育てしやすいまちになるために知恵を出していただければと思います。

事務局

なかよし広場のスペースの問題ですが、利用者が増えれば場所は狭くなります。その

ため、こども園と相談し、園庭の活用や水遊び、外遊びを取り入れていきたいと思います。

なかよし広場は未就園児で２歳までのお子さんが中心で、大きな子どもと乳児が一緒では危険があるのではというご意見ですが、なかよし広場での利用者アンケートをした際には、年齢別で分けてほしいというご意見は明確にはでていませんでした。研究はさせていただきますが、対応策として、年齢別に曜日で分けるのか、するしないを含め検討しているところです。

また、町としても、なかよし広場は保育施設を利用していない人の相談先として位置付けています。相談結果についても、広場から報告をいただいていますし、内容によっては子育て世代包括支援センターの定例会での議題としてあげるなど、ご相談を受け止める体制をとっています。しかし、相談いただくためにどうするのかという点、その周知をしっかりしていきたいと思います。また、元気号のダイヤについては様々なご意見をいただいているので、担当課に意見を上げたいと思います。

会長

委員のご指摘でありました、地域でできる子育て支援について、何かお話があれば。

委員Ｂ

なかよし広場に小さい子を連れてきた母親が同じような月齢の小さい子がいないと話していたことがありました。王寺町の子育て広場では月齢で分けている。同じような月齢の子が集まれるようになれればよい。大阪の例では日、時間帯によって子どもの年齢、月齢を分けて実施しているようです。

事務局

今後、そうした先進事例など調査していきます。

副会長

地域での子育て支援は重要だと思いますが、計画の事業について住民の方がどの程度知っているのか。周知の部分が大きな課題であると思います。これからは行政中心ではなく、民間レベルでのボトムアップというか、後方支援が必要になってくると思います。

例えば、はじめて妊婦になった方のケアを保健センターでしていますが、保育園の０歳児クラスに来ていただければ、妊婦の方の不安を少しでも軽減できるようになるのではと思います。

様々な子育て支援の事業がありますが、事業が点となっているので、それを面にしていく、ネットワークしていくための情報の発信を１本化できればよいと思います。

事務局

行政のできることに限りがある中、副会長のご指摘どおり、地域を巻き込んでいくことが重要だと思います。地域福祉計画や自治基本条例においても、地域との連携が重要な課題であり、行政のできる点について、周知をもっと行い、点を面にしていくことが

重要であると考えます。

委員Ｃ
　なかよし広場について年齢で分けるというお話がありましたが、年齢の離れた子どもを一緒にすると危険があるとは思いますが、兄弟がいると、日、時間を分けられると利用しにくくなる。その場で保護者の方にも周りをみていただくなど、年齢の上の子も下の子もいるといった、指導員にサポートしてもらいながら保護者の勉強の場として対応していただければよいと思います。

会長
　ご意見ありがとうございます。

事務局
　保護者の負担になることは子育て支援といえないと思いますので、保護者へのケアを含めてどうしていくかを研究させていただきます。

委員Ｄ
　利用者の増加により幼稚園での園庭開放ができなくなっています。無償化で預かり保育が増える可能性があり、人材の確保が必要になると思います。

大城会長
　預かり保育の上限付きで無償化が予定され、人材の確保が課題となっています。また、ニーズが増える可能性がある中、園庭開放が難しくなってきています。

事務局
　預かり保育が増える中、同じ時間帯で園庭開放が難しくなっています。園との調整が必要ですが、現在実施している年 20 回では園庭遊びを充実させて対応するのも１つの案であると思います。すべて無償化ではなく条件付きの無償化であり、利用ニーズをしっかり把握していきたいと思います。また、幼稚園教諭、保育士の人材確保は無償化以前に難しくなっています。子どもに直接影響してくる部分ですので、人材確保に努めたいと思います。

副会長
　私の園では、園庭開放を平日の 10 時から 11 時の１時間をしています。在園児の子どもたちも園庭で遊んでいます。対象者が未就園児の親子ですが、基本的には保護者の責任において利用していただいています。やはり、施設は地域の資源なので大いに活用してほしいと思います。来ていただいた保護者の方に、園の様子、保育士の様子を知ってもらい、場合によっては子育ての相談も対応しています。

事務局
　参考にさせていただきます。

委員Ｃ
　幼稚園の一時預かりを利用していた際に、利用している子どもが増加してきて、子どもが外で遊ばせてもらえなくなることがありました。子どもの人数が多いため、ずっと部屋で折り紙、ＤＶＤとかが中心になり、先生の状況をみても改善を求められる状況ではありませんが、子どもがそういった過ごし方なら家に帰りたいといった意見もありました。

事務局
　幼稚園の預かり保育は専任の先生を１人配置して対応しています。子どもの人数が増えたことにより、外遊びのリスクを考えると、屋内になることもあるかと思います。子どもの数に応じた子どもの過ごし方を充実させるために人の確保が必要ですが、確保が難しい中では、屋内遊びでの内容充実などになってくると思います。

会長
　量の確保が難しい中、質向上は難しいところがありますが。他にご意見は、なければ次の議題について事務局から説明をお願いします。

事務局
　量の見込みについて説明。

会長
　質問等あればお願いします。実績値との乖離が多い部分は補正をお願いします。

事務局
　その他、次回の会議について、日程は９月下旬、時間は午前中に会議の開催を予定しています。議題として骨子案を提示する予定です。

会長
　他に何かありますか。ないようでしたら事務局に進行をお返しします。

事務局
　以上で令和元年第１回子ども・子育て会議を終了いたします。

――― 終了 ―――